

平成27年度

工事監査の結果

「関南部地区コミュニティセンター建設工事」の工事監査を、平成28年1月19日に行いました。その結果を、平成28年3月9日に市長と市議会へ報告しましたので、概要をお知らせします。

亀山市監査委員 渡部 満
同 西川 憲 行
同 匹田 哲

【監査対象工事の概要】

所管部室	市民文化部 地域づくり支援室	工事場所	亀山市関町萩原地内
工事名	関南部地区コミュニティセンター建設工事		
工事内容	敷地面積： 1,701.10 m ² 建築面積： 300.85 m ² (自転車置場含む) 延床面積： 260.02 m ² (自転車置場除く) ①建築工事：木造平屋建て 外部仕上：屋根カラーガルバリウム鋼板 段付横葺 外壁窯業系サイディング (木目調) アルミ製建具ペアガラスほか ②外構工事：舗装、フェンス、花壇、自転車置場、駐車場ラインほか ③造成工事：土工事、擁壁工事、排水工事、市道改修工事ほか ④電気設備工事：電灯設備、動力設備、構内情報通信網設備、構内交換設備、映像・音響設備、誘導支援設備、テレビ共同受信設備、非常警報設備、構内配電線路 ⑤機械設備工事：給排水衛生設備、空調設備		
	契約方法	一般競争入札	契約金額
請負業者	白川建設株式会社	設計業者	株式会社前野建築設計
監理業者	株式会社前野建築設計		
工期	平成27年6月10日～平成28年3月4日		
工事進捗率	平成27年12月31日現在 62.0%		

【1. 総括】

地域の主体性を育み、地域の人々が気軽に立ち寄り、出会い、つながりを持ち、助け合い支え合いながら絆を強めることができる関南部地区まちづくり協議会の新たな活動拠点施設として関南部地区コミュニティセンターを建設するものである。

書類関係における監査については、設計・積算・契約・施工管理・品質管理等各段階における書類等を調査したところ、いずれも適正であると判断した。

現場施工状況における監査については、12月31日現在で計画出来高65.0%に対して実施出来高62.0%で、ほぼ基本工程どおり進捗しており、目視により確認できる範囲では、施工状況は適正であると判断した。

【2.書類監査】

① 設計

外壁に木目調の窯業系サイディングを取り入れることにより、外からの景観に配慮していた。また、敷地北側からの風に対して開口を少なくするとともに、窓にペアガラスを採用するなど寒冷期の対策を行っていた。

「三重県ユニバーサルデザインのまちづくり推進条例(UD条例)」の適合通知を受けていた。

シックハウス対策について、材料は、ホルムアルデヒドの放散量が最も少ない建材である「F☆☆☆☆」を採用していた。また、確認申請時に建築使用材料表を提出していた。

耐震については、建築構造設計基準、官庁施設の総合耐震計画基準などに適合していた。

② 積算

公共建築工事積算基準(平成19年版)、公共建築工事標準単価積算基準(平成27年版)のほか、単価・歩掛は、建設物価、建築コスト情報、建築施工単価を参考としていた。また、いずれにも該当のないものは専門業者3者の見積りを徴収し、適正価格を採用していた。

③ 契約

現場代理人、監理技術者は専任とし、「監理技術者」等の資格を持つ者が選定されていた。

前払金保証、履行の保証ともに、所定の手続が採られていた。

④ 施工管理

「施工計画書」は、主要な工種すべてにおいて作成提出されており、それらの施工計画書の承認手続きは、工事監理者及び市監督員が確認、承諾のうえ1部ずつ保管していた。

使用材料の品質・性能は、材料承認時に製造者名、JIS番号・マークにより確認し、現場搬入時には品番、規格、試験成績書等を照合していた。また、木材の亀山市産、三重県産を表すシールが製材品個々に貼付されていた。

工事記録写真は適切に整備されていた。

「建設副産物」の「運搬収集・中間処理・最終処分」に係る契約は、適切に締結され、マニフェストの使用も適切に行われていた。

⑤ 品質管理

配筋検査の検査記録及び記録写真は整備されていた。市監督員の是正指摘事項および是正確認記録も保存されていた。

配筋ミスを防ぐために、工事監理者および市監督員により施工図ならびに段階確認時にダブルチェックがなされており、鉄筋工事は適切に行われていた。

コンクリートの品質管理について、アルカリ骨材反応、塩分量ともに問題がない骨材であることが確認されていた。

荷卸し地点での検査は、スランプ、空気量、コンクリート温度、塩化物量について工事請負業者、工事監理者で行い、可能な限り市監督員も立会いを行っていた。記録の保存、写真の整理とも適切であった。

柱・大梁に構造用製材スギ(目視等級製材一級)、その他の部位はスギ無等級材であり、土台・大引にヒノキ無等級材を用いていた。

木材の現場搬入時に段階確認で工事監理者、市監督員による材料、プレカット、含水率・寸

法検査などを行っていた。

アルミ製建具の耐風圧性、気密性、水密性は、建具性能表を仕様書と照合して確認していた。

省エネ対策として、照明器具は全てLEDランプを、環境対策として、エコケーブルを使用していた。

【3. 現場施工状況監査】

① 工事施工状況

腰壁、擁壁等コンクリートの打ち込み状況は、適切であった。

屋根カラーガルバリウム鋼板・軒樋・縦樋・外壁窯業系サイディングの施工状況、ドア・窓のアルミ製建具の取り付け状況、内部木軸へのボード貼り、床下地モルタルの施工状況は良好であった。

屋根の鋼板葺きが外壁サイディングに突き当たる部位は、風の作用により水切を超えて雨漏りとなる事例がある。特に、玄関上部屋根の下部で狭くなっている個所は注意が必要である。この部分の下部室内の内装工事前に散水などにより、雨漏りの確認をされたい。

建設業許可票、労災保険成立票、確認申請の標識、施工体系図等は適切に掲示されていた。

② 安全管理状況

安全日誌などの管理状態、場内の整理整頓、通路の管理は良好であった。

安全面に関する書類が適切に整備されており、KYK（危険予知活動）による事故要因確認活動だけでなく、事故要因によって発生するリスクの確認も行われていた。現場の安全管理には細心の注意が払われていた。

③ 品質管理状況

工事記録や市監督員の検査・指摘・是正確認の記録および工事中の定例会議や分科会の議事録は適正に整備されていた。

現場の出来栄は、良好であった。

工事完成図面は、今後の維持管理に関する正確な情報を保存するため、特に隠ぺい部や土中埋設部の情報などを正確に反映したものとなるよう指導されたい。